

特別な支援を必要とする子供への就学前から学齢期、社会参加までの切れ目ない支援体制整備

目的

困難を抱える幼児・児童・生徒については、その保護者や家庭にも困難を抱えている場合が多く、関係機関等と密接に連携を図り、対応していくことが必要である。

そのため、早期支援コーディネーターを配置し、困難を抱える幼児・児童・生徒について、最もふさわしい学びの場を検討するため、保護者と学校、関係機関との橋渡しを行い、早期就学相談や支援体制を充実させることを目的とする。



成果

早期支援コーディネーターが中心となり、保護者と学校、関係機関との橋渡しを行うことで、早期就学相談や支援体制の充実を図った。それにより、就学前からの学びの場の検討に際して、子どもの実態及び客観的資料に基づき、保護者・学校・教育委員会の3者の合意形成を図るための体制が構築できた。

また、就学後についても、校内支援委員会等において、適宜学びの場の検討を行っていく。

事業内容

小学校就学予定児を中心に、関係機関等と密接に連携を図りながら実態把握を行い、早期からの就学相談や支援体制の充実を図った。

- ・年中児時点からの保育所・こども園等訪問による実態把握
- ・就学予定児の個別の学校見学、保護者面談
- ・就学予定児の在籍園等への就学支援シートの作成依頼
- ・就学までの流れについて保護者へ周知（チラシ配布）
- ※就学への不安を抱える場合は早めの相談を促す
- ・地区相談会（にこにこ相談会）の開催
- ・市教育支援委員会の開催
- ・保園小連絡研修会への参加
- ・関係機関（支援センター、福祉部局等）との情報共有

